

E・とざわ

戸沢村スポーツ環境検討委員会・部会の開催

～子どもたちにとって望ましいスポーツ環境づくりを目指して～

国及び県は、令和5年度から令和7年度にかけ、「休日の部活動の地域移行」「地域におけるスポーツ機会の確保、環境整備」を進める方針を示しました。戸沢村教育委員会では、国・県の方針を受け、令和3年度、スポーツクラブ、スポーツ協会、スポ少代表等のスポーツ関係者、保護者代表、教職員による「子どもたちのスポーツ環境についての意見交換会」を開き、戸沢村のスポーツ環境の現状と課題、要望等について話し合う場を設けました。指導者の確保等、課題はあるものの、子どもたちにとって望ましいスポーツ環境を整える必要性について共有することができました。



令和4年度は、昨年度出された意見を踏まえ、今後の戸沢村のスポーツ環境についての方向性を協議するため、「戸沢村スポーツ環境検討委員会・部会」を設置しました。



さっそく、10月25日に、第1回検討委員会・部会が開かれ、「部活動地域移行」「スポーツ環境の整備」について話し合われました。「運動することは成長に欠かせない」「子どものころの運動経験が生涯スポーツにつながる」「子どもたちや保護者はどう考えているか」等、さまざまな観点から意見が出されました。今後も、子どもたちにとって望ましいスポーツ環境づくりを目指した話し合いを続けていきます。

「共育の日」第21回村民フォーラム！

10月8日、第21回村民フォーラムが開催されました。今年度は、毎年行っている表彰に加え、村内の小中学校が統合されて10年目の節目にあたり、学校の教育活動にご協力いただいた方々にも表彰状を贈りました。また、分科会形式で、特別支援教育、地域づくり、読書、家庭教育についての研修を行いました。当日は、戸沢学園9年生が進行や表彰の介添えを務め、後片付けまで手伝ってくれました。大人と子どもの社会力の育成「共育」を象徴するフォーラムでした。



子どもを育て親も育つ～子育て講座～

10月7日の1年生の給食参観後、子育て講座を行いました。テーマは、「心をつなぐ親子の対話」講師は、山形県家庭教育アドバイザーの阿部彰先生でした。子どもの話を後回しにせず、よく聞くこと、シャワーのようなほめ言葉が自己肯定感を高めること、子どもの問題は子どもに解決させること、失敗も成長に大事なこと等…子育てのヒントをたくさんお話しいただきました。

参加者の皆さんからは、「明日からも子育て、がんばろうと思います！」という感想が多く寄せられました。学びの多い講座でした。



「美・緑なかいフェスティバル 2022」!

10月19日(日)、神奈川県中井町の中井中央公園において、「美・緑なかいフェスティバル 2022」が開催されました。戸沢村からも出店し、戸沢村の特産品や山形の果物等を販売、午前中ですべて完売することができました。中でも、缶バッチやせんだうくんミニタオルなどが当たるガチャガチャは、子どもたちに大好評でした。



エリアキャンパスもがみ懇談会

10月20日(木)、いきいきランドぼんぼ館において、令和4年度エリアキャンパスもがみ懇談会が開催されました。エリアキャンパスもがみキャンパス長である、山形大学大西彰正教授や、学士課程基礎教育機構長 三上英司教授をはじめ、市町村教育長や担当者29名が出席されました。今年度実施された2022 フィールドラーニング共生の森もがみプログラムについての学生へのアンケート結果や山形大学のエリアキャンパスもがみにおける授業運営方針などが報告されました。懇談会終了後は、温泉熱を活用した地熱栽培の雪バナナハウスを見学しました。



えほんの森 ハロウィンスペシャル

10月22日(土)、中央公民館にて開催しました。ハロウィンにちなんだ手遊びや読み聞かせ、不思議なマジックを堪能したあとは、ゲーム大会! 参加してくれた子どもたちも職員もばっちり仮装して、ハロウィンのおはなし会を楽しみました☆



「地産地消」のすすめ

地域で生産されたものを、その地域で消費することを、「地産地消」といいます。

○●地産地消のメリット●○

- ・農産物を身近に感じることができる。
- ・旬の新鮮な食材をいただくことができる。
- ・特産物や郷土料理を通じて、地域への関心や愛着を深めることができる。

戸沢村では、特産物のパプリカや、山菜類、野菜類、きのこ類など、生産者の方が心をこめて育てた地元の食材を、積極的に給食に取り入れています。地域への関心を持ち、食べ物に関わる人々への感謝の気持ちを持った子に育ててほしいと願っています。

